

中国における日本古典文学研究の現状及び動向

張 龍妹*

本稿では、中国で行われている「中国日本学研究『カシオ杯』優秀修士論文賞」の受賞作と中国の各大学に提出された博士論文から、大学院における古典文学研究の一斑を紹介する。さらに、中国で唯一の日本研究に関する専門誌『日語学習と研究』に発表された論文と国家社会科学基金の助成を受けた研究プロジェクトの内容を分析する。それらに基づき、中国における日本古典文学研究の現状と動向を把握したい。

キーワード：中国文学、域外漢学、日本的受容、若手研究者、競争的研究資金

中国では六十以上の大学で「日本語文学」修士課程を設けている。また14の大学では同内容の博士課程を設けている。これらの大学の学生の研究テーマから、中国の若手研究者の関心を知ることができる。また日本研究専門誌における掲載論文、競争的研究資金の獲得などの分析を通して、研究の現状を分析し、今後の動向を予測する。なお、中国語の論文タイトルは簡体字ではなく、有用性を考慮し日本の常用漢字になおした。

1、「カシオ杯」優秀修士論文賞における古典文学研究の受賞作

2008年からカシオ電子辞書の後援で、北京外国語大学北京日本学研究センター及び中国日本語教育研究会が主催となって、全国の日本学研究に関する優秀修士論文を選抜することになった。これは現在、中国で行われている唯一の日本関係修士論文コンクールで、多くの大学院教育評価の一つの指標ともなっている。実施方法としては、毎年の夏休みの直前に、当該年度に提出された修士論文の優秀作を各大学から推薦してもらう。発足当時は各大学における指導教官は言語・文学が主流だったので、言語・文学・社会文化の3部門しか設けられていなかった。推薦できる論文数についても制限し、当該年度修了者数20名

* 北京外国語大学 教授

表1 近年の「カシオ杯」優秀修士論文賞における古典文学研究受賞作一覧

年度	作者	出身大学	修士学位論文タイトル
2019	向 偉	北京大学	古代日本における反魂香物語の受容と変容 ——文学と図像の関係を兼ねて
	張 博	北京外国語大学	定家所伝本『金槐和歌集』雑歌考
	劉 菲	北京外国語大学	大正期児童文学における「子ども」の発見 ——「大人」との関係から見て
2020	辛 悦	北京外国語大学	『我身にたどる姫君』における女性意識
	李 暢	華東師範大学	大伴旅人と神仙思想——万葉歌人の仙女趣味を背景に
	程玉善	中山大学	転換期における『古今和歌集』の選択 ——中国伝統思想の受容を中心に
	劉星粵	清華大学	『宇津保物語』における仙人世界——「俊蔭」巻を中心に
	沐海宇	四川外国語大学	堀孤山における『鶴林玉露』の受容
2021	于恒超	武漢大学	『歌経標式』歌病説の成立——用語を手がかりに
	張凱威	北京大学	室町時代文芸作品における「日本蘇武談」
	胡曉暉	南開大学	『日本考』所収和歌考釈
	于 洋	華東師範大学	日本における燕丹孝子像の受容史
	李春洋	中国人民大学	『御伽草子』A系統とH系統の異同について ——根津美術館蔵絵巻と京都大学美学美術史学研究室蔵奈良絵本の異同比較
	白文娜	北京第二外国語学院	平安時代の漢文における和習問題研究 ——『靈異記』と『法華驗記』の比較を中心に
	王麗麗	天津外国語大学	『平治物語』における語り手の源氏一族への姿勢に関する考察
	李智健	河南師範大学	『南総里見八犬伝』における『三国志演義』の受容について
2022	王順鑫	中国人民大学	『英草紙』における『太平記』の受容研究
	王 婷	上海外国語大学	『御伽草子』における女性描写 ——「文正草子」「唐糸草子」「さいき」を中心に
	彭 婷	首都師範大学	竹添進一郎の中国観——『棧雲峡雨日記並詩草』を中心に
	馮龍哲	四川外国語大学	六如上人における宋詩の受容——『六如庵詩鈔』二編を中心に

中国では、外国語学院に出された修士論文は基本的に外国語で書かれる。

以内の規模の大学からは1篇、20名以上からは2篇しか推薦できなかった。次第に教員の専門が多様化し、2022年現在では言語、日本語教育、文学、文化、国別と地域（社会、経済、政治等）、翻訳という6部門に細分化され、各大学から推薦できる論文数も各部門1篇に増加した。2022年7月の時点で、開設から14年の間に各大学から推薦された修士論文は750余篇で、その半数近くの論文が受賞している¹。

表1は2019年度から2022年度までの4年間の古典をテーマにした受賞作の一覧である²。2019年度文学部門の受賞作は10篇で、そのうち古典をテーマにしたものは3篇ある。2020

1 北京日本学研究中心のウェブサイト <https://bjryzx.bfsu.edu.cn/info/1087/1803.htm> (2023年3月20日閲覧)。

2 「古典文学」と「近現代文学」は単純に時代によって分けられている。明治時代からは近現代文学で、江戸時代までは古典という分け方である。

年度は15篇のうち5篇、2021年度は15篇のうち8篇、2022年は14篇のうち4篇が古典をテーマとしていた。年度によってバラツキがあるものの、2018年度に古典の受賞作がなかったことを考えると、修士課程における古典文学研究は増加傾向にあると見て差し支えなからう。これはまた各大学において古典文学を専門とする教員が増えていることを証明している。

次に研究テーマを分類してみると、以下のような特徴が看取できる。

- (1) 『日本霊異記』『万葉集』『古今和歌集』『うつほ物語』『南総里見八犬伝』といった中国でも広く知られている古典の名作を取り上げている。
- (2) 『金槐和歌集』『我身にたどる姫君』『御伽草子』『英草紙』など中国で今までほとんど研究されていない作品をテーマにしている。
- (3) 「反魂香物語」「日本蘇武談」「燕丹孝子像」のような中国故事の日本における受容を通時的に考察している。
- (4) 「『歌経標式』の歌病説の成立」のような中国文学の教養を生かした研究も見られる。
- (5) 「定家所伝本『金槐和歌集』雑歌考」、「『日本考』所収和歌考釈」、「御伽草子 A 系統と H 系統の異同について」のように、問題意識の段階ですでに「中国影響論」から抜け出しているところが注目される。
- (6) (3)(4)とも関連するが、「堀孤山における『鶴林玉露』の受容」、「六如上人における宋詩の受容」、「竹添進一郎の中国観」のように、日本における中国文学の受容または中国理解への関心も強い。

資料の入手・閲覧の方途が多様になり、学生たちの興味関心が少しずつ広がっていることが喜ばしく思われるが、それでもやはり中国文学・文化影響論か日本における中国文学の受容論が多数を占めている。

2、近年の博士論文から見た古典文学研究

中国における博士学位の授与は大学と教員双方に資格が必要である。まず大学が博士学位を授与する資格を政府の教育部に認可してもらわなければならない。その上、教員が博士課程の学生を指導する資格を獲得しなければならない。2022年度の時点で、「外国言語文学」という一級科目の下に「日本言語文学」の博士学位を授与できる大学は北京師範大学、北京外国語大学、北京大学、中国人民大学、南開大学、大連外国語大学、延辺大学、黒龍江大学、同済大学、華東師範大学、上海外国語大学、厦門大学、山東大学、広東外語外貿大学の14校で、これらの大学の中で、古典文学の学生を指導する資格を有している教員は十人足らずである。「外国言語文学」の他に、中文系の中に「比較文学と世界文学」コースを設けている大学があり、日本関係をテーマにしている教員もいる。つまり、指導教員には外国語学院出身と中文系出身の両方が存在する。

表2は2017年度から2023年度までの7年間の博士論文一覧である。2022年度まではす

表2 2017～2023年度の古典文学博士論文一覧

年度	作者	大学	博士論文タイトル
2017	胡照汀	中国人民大学	『元亨釈書』研究
	韓凌燕	吉林大学	焦慮的心象風景——『蜻蛉日記』研究
	尤方舟	北京外国語大学	日本故事集中的孔子形象研究
	張静宇	北京外国語大学	『太平記』の歴史叙述和儒家思想
	雷芳	南京師範大学	日本“物哀”美学範疇史論
2018	毛建雷	北京師範大学	義堂周信漢詩研究
	楚永娟	山東大学	『蜻蛉日記』叙事研究
	謝明	山東大学	世阿弥能楽中の禪研究
	邱春泉	北京外国語大学	中世女性日記文学研究——日記が書かれる内発的契機を探る
	霍君	北京外国語大学	日本中世文学中の天狗形象研究
	李慧	湖南師範大学	林羅山詩賦研究
2019	蒋雲斗	中国人民大学	浅井了意仮名草子与漢文典籍關係研究
	姜毅然	北京師範大学	日本文学与漢方医学
2020	車才良	中国人民大学	絶海中津漢詩文研究
	鐘薇芳	南開大学	『蒙求』在日本的傳播与影響研究
	陳茜	南開大学	策彦周良『謙齋南渡集』研究
2021	範維偉	北京師範大学	万里集九漢詩研究——以『梅花無尽藏』為中心
	羅宇	北京師範大学	日本五山禪僧对蘇軾詩的接受——以『四河入海』為中心
	彭漆	北京外国語大学	『栄花物語』の叙事方法
	張逸農	天津師範大学	『日本辞賦研究』
	董璐	天津師範大学	日藏『新編江湖風月集略注』整理与研究
2022	翟会寧	中国人民大学	『十訓抄』对于漢文典籍的接受研究
	覃思遠	北京外国語大学	大関本『朝鮮征伐記』の他者叙述与自己構築
	馬如慧	北京外国語大学	『源氏物語』における女性主体の叙述論理
	蔡春曉	北京外国語大学	『紅樓夢』八十回本概念隱喻日訳研究
	趙文珍	北京師範大学	日僧江西龍派漢詩与中国文学的關係研究
	李曼	湖南師範大学	広瀬淡窓漢詩研究
	閔秀	湖南師範大学	大伴家持的和歌对中国文学的接受研究
2023	王荟媛	中国人民大学	無住道暁における唐宋代仏教典籍の受容
	向偉	北京大学	東亜視闕下日本戦記繪卷考論
	劉嘉瑤	北京外国語大学	宝塚歌劇『源氏劇』研究

中国では、博士論文は外国語と中国語のいずれかで作成することが可能である。表にまとめた論文タイトルはその論文の書かれた言語のままにした。

でに学位が授与されたが、2023年度は、3月までに予備審査を通った一部のものである。網かけした8篇の論文は中文系の「比較文学と世界文学」コースの論文である。2017年南京師範大学の雷芳の「日本の「もののあはれ」美学の範疇に関する史的研究」（日本“物哀”美学範疇史論）は古典から近現代文学に至るまで、「もののあはれ」を通史的に指摘したものである。ちなみに「もののあはれ」に関する中国学生の興味関心は根強く、学術情報データベースの中国知網（CNKI）で「物哀」をキーワードに検索すると、収録されている修士

論文が329篇にも上る。『万葉集』からアニメーション作品に至るまで取り上げられ、その中の多くが中文系の「比較文学と世界文学」コースの学生によるものである。この8篇の論文のうち、もう一つ異色なのは2019年北京師範大学の姜毅然の「日本文学と漢方医学」である。これも通史的な研究で、古典から近現代の作品に描かれる病症を漢方医学ではどのような病気に当たるのかを論じたものである。この2篇を除いて、残りの6篇は北京師範大学の張哲俊教授と天津師範大学の王暁平教授の指導によるものである。これらはいわゆる「域外漢学」の研究の一部で、注釈・出典考証を中心に、日本における漢詩文研究に寄与すると同時に、中国の「国学」研究にも貢献している。例えば、2021年度北京師範大学の羅宇の「日本五山禅僧における蘇軾詩の受容——『四河入海』を中心に」は、『四河入海』という蘇軾詩の抄物を通して、五山禅僧の蘇軾詩受容の特徴を明らかにしながら、現在の中国における蘇軾詩研究にも新資料を提供できるものである。

その他の論文は各大学の外国語学院から出されたもので、以下、指導教員と専門分野を簡単に述べる。2017年の韓凌燕の指導教員は吉林大学の宿久高教授で、近現代文学から古典まで幅広く研究している。中国人民大学の李銘敬教授は説話文学が専門で、その指導する論文は説話関係、仏教関係、五山文学に集中している。過去に山東大学に勤めていたため、2018年度の山東大学の2篇の博士論文も李教授の指導によるものである。南開大学の劉雨珍教授は『万葉集』を専門としている。湖南師範大学の冉毅教授は、瀟湘八景をめぐる研究をしている。北京大学の丁莉教授は2019年から博士課程学生指導資格を獲得し、2023年に初めての学生が博士論文を提出することになった。北京外国語大学北京日本学研究所勤務の筆者の専門は『源氏物語』を中心とする平安仮名文学である。

表2の一覧を見ると、それぞれの論文は指導教官の専門と大きく関わりながらも、基本的に日本文学の特徴を探求するものと、日本文学における中国文学の影響を探るものに分けられる。また、五山文学・江戸漢詩といった「域外漢学」への関心が強いことも窺える。さらに研究テーマに取り上げられている作品もカノン化されたものが多いが、今年3月に予備審査を通過した北京大学の向偉の「東アジアにおける日本戦記絵巻論考」、北京外大の劉嘉榕の「宝塚歌劇『源氏劇』研究」は、それぞれ絵巻や宝塚歌劇を扱った学際的研究で、今後の研究テーマの多様化が期待される場所である。大多数は日本文学における中国文学・文化受容論である。

2019年に人民大学から「浅井了意の仮名草子と漢文典籍との関係に関する研究」で学位を取得した蔣雲斗は現在、南開大学の助教授として活躍し、浅井了意と中国古代文学との関係をめぐって多くの業績をあげ、多数の研究プロジェクトを進めている。中国の国学研究にも足を踏み入れた稀な日本文学出身者である³。

3 蔣雲斗の研究プロジェクトに、(1) 中国索引学会规划項目（国家级一级学会重点课题）：“日本江戸《书籍目录》所载汉籍书目索引编纂研究”（進行中）、(2) 贵州省哲学社会科学规划国学单列课题（青年項目）：“中国古代小说类书在日本江戸时代的流播与影响研究”（進行中）、(3) 国家社会科学基金项目（青年項目）：“日本假名草子文学对中国古代文学的接受研究”（進行中）、(4) 教育部人文社科基金项目（青年項目）：“浅井了意假名草子对中国古代文学的接受研究”（完成）がある。

3、近年『日語学習と研究』に発表された論文からみた研究動向

『日語学習と研究』（日本語学習と研究）は中国国内唯一の日本研究関係の専門誌で、隔月で発行されている。「日語言語研究」「日語教育研究」「日本文学研究」「日本文化研究」「総合論述」「教学と研究」「翻訳論壇」「日漢比較研究」などの常設内容の他に、「中日古代文学関係研究」「中日文学と文化関係研究」といったテーマ別（專題）の項目も設けられている。2020年第1号には高松寿夫、蔣義喬、佐藤道生、岩山泰三、陳可冉の5名の研究者の論文が掲載されている（表3）。これは蔣義喬が2018年に獲得した国家社会科学基金プロジェクト「日本古代文学における謝靈運の受容研究」（日本古代文学対謝靈運的接受研究）の研究成果の一部を「謝靈運と日本古代文学」という特集のもとに掲載されたものである。

表3は最近3年の古典文学関係の論文を掲げたものである。まず網かけした6篇の論文の作者は先述した博士論文を出した若手研究者の業績である。修士論文または博士論文の一部をここで発表し、研究者としてデビューしている。

表3の研究内容もまた第2節で取り上げた博士論文と同様に、日本文学の特徴を明らかにしようとするものと、日本文学における中国文学・文化受容の特色を探るものに分けられる。前者は蔣雲斗の「浅井了意事蹟考」、邱春泉の「日本古典文学における女性の『色好み』観」、馬如慧の「『とはずがたり』における家門意識」、楊敬娜の「古代日本『歌垣』形式についての分析」、黄一丁の「日本中世詩歌選の政治化」の5篇のみである。取り上げられている作品は中国でほとんど知られていないもので、『とはずがたり』（告白）における後深草院二条の父親の遺言にみえる「色好みの家」について詳細に考察するような論文も見られ、研究の深化が窺える。

日本文学における中国文学・文化の受容については、謝靈運、黄庭堅、蘇軾のような詩人の日本における受容、五山文学と中国文学の関係、軍記物語における忠孝思想の受容、江戸文学・文化への関心が強くなっている。「域外漢学」の一環として和文学よりも日本漢詩に関する内容が15篇と絶対多数を占めている。一覧の中で特に注目されるのは、北京大学の丁莉教授の「絵画東伝と古代日本の文化受容——ブックロードと絵画」と、「変異と新生——日本江戸時代における『長恨歌』の画文の受容」という2篇の論文である。前者ではブックロードにおける中国絵画作品の東伝、絵画作品が古代日本文学・文化に与えた影響、及び古代日本における外来文化受容に見られる文学と絵画の相似性について論じている。後者は江戸時代における『長恨歌』の受容を考察したものである。絵入り本『楊貴妃物語』及びそれを粉本に作られた五つの『長恨歌絵巻』における詞書と絵画の関係を分析し、江戸時代における『長恨歌』受容の通俗化、悲劇物語の喜劇化の過程を論じた。丁莉教授が指導した向偉が、前節で見たように「東アジアにおける日本戦記絵巻論考」をテーマに博士論文を出しているのも、テキストと図像の関係に注意が向くようになった近年の中国国内の研究動向と軌を一にしている。こうした研究は、これからの中日比較研究、日

表3 最近3年の『日語学習と研究』古典関係論文一覧

年度	作者	論文タイトル
2020	高松寿夫	日本古代辺境意識与自然発見 (翻訳)
	蔣義喬	論平安時代君臣唱和对謝靈運の接受——以山水描写為例
	佐藤道生	謝靈運对平安時代詩宴的影響 (翻訳)
	岩山泰三	五山漢詩中の『登池上楼』(翻訳)
	陳可冉	謝靈運与江戸前期文壇
	于 君	『太平記』中の武士形象——以「忠」和「孝」為中心
	蔣雲斗	浅井了意生平考
	謝文君	五山禪僧与黄庭堅的詩戰之喻
	閔 秀	『万葉集』中鶴意象的中国文学体现
	楊夫高	『保元物語』「忠」的中国要素与皇權主題
	邱春泉	論日本古典文学中的女性「好色」觀
2021	馬如慧	論『告白』〔とはずがたり〕中的家門意識——以父親的遺言為中心
	丁 莉	繪画東伝与古代日本の文化受容——書籍之路与繪画
	孫士超	平安時代省試詩的伝奇故事導入
	郭雪妮	從『三体詩』注釈史看江戸俳人森川許六の唐詩闡釈
	高兵兵	日本入明僧絶海中津的江浙吟詠
	羅 宇	『天下白』命名考——兼論万里集九对蘇軾的接受
	姚 維	五山禪僧与虢国夫人形象的受容——以『虢国夫人夜遊園』詩為例
2022	謝文君	典範的流動——五山詩学暢銷書与禪僧黄庭堅詩接受
	丁 莉	變異与新生——『長恨歌』在日本江戸時代的文図流播
	楊敬娜	古代日本「歌垣」形式考析
	畢雪飛	日本牽牛織女故事叙述形態研究——以七夕伝説型天鵝処女故事為中心
	唐植君	記紀神話与昔話中蛇郎故事結構
	黄一丁	論日本中世詩歌選集的政治化——以『和漢兼作集』為例
	馮 芒	菅原道真漢詩詩体論——兼考『山家晚秋』的變体之源
	趙文珍	日僧江西龍派生平若干問題考弁

作品名が漢訳され、原題がわかりにくい場合は〔 〕内に原作名を付した。

本における中国文学・文化受容研究の新たな可能性を示すものである⁴。

4、国家社会科学基金研究プロジェクトの指針的役割

中国には国家社会科学基金という組織があり、その下には各省市レベルの社会科学基金がある。また教育部人文社会科学研究プロジェクトもある。人文社会関係の研究プロジェ

4 丁莉教授の一連の研究はそれぞれ北京大学陳明教授が2016年に獲得した国家社会科学基金重点プロジェクト「古代東方文学插图本史料集成及研究」、2021年に丁教授本人が獲得した国家社会科学基金一般プロジェクト「古代日本絵画作品中的中国元素研究」に依拠するものである。

表4 最近5年の日本古典文学関係研究プロジェクト一覧

年度	氏名	所属	プロジェクト名
2018	劉芳亮	洛陽外国語学院	日本江戸時代中国唐詩選本の伝播与接受研究
	王京钰	常熟理工学院	日本五山文学中的杜甫形象研究
	蔣雲斗	東北財經大学	日本仮名草子文学对中国古代文学的接受研究
	劉菲菲	揚州大学	日本江戸時代漢学家読書札記整理与研究
2019	呉雨平	蘇州大学	『和漢朗詠集』之中国文学接受的跨文化闡釈与研究
	胡志昂	上海杉達学院	『李嶠百詠』及『百詠和歌』研究
	勾艷軍	天津大学	明清小説続書在日本近世的伝播与影響研究
	張 旎	西華師範大学	中国古代詩歌対日本漢詩「雅俗融合」現象影響
2020	畢雪飛	浙江農林大学	牽牛織女伝説在日本的伝播演化与活態伝承研究
	徐 臻	西南交通大学	文化地理学視域下中日古代跨境詩歌図考
	呉春燕	広東工業大学	古代日本文学的『莊子』接受史研究
2021	なし	なし	なし
2022	羅 宇	重慶大学	蘇軾対日本五山文学之影響研究
	孟頤鵬	広西師範大学	駢文在日本的受容与変容研究
	孫虎堂	重慶文理学院	中国笑話在日本江戸时期的流播与影響研究

『日語学習与研究』2018年第5号、2019年第4号、2021年第1号、2021年第6号、2022年第6号の裏表紙に記載された日本関係立項プロジェクト統計から古典文学関係をピックアップしたものである。

クトは主にこの二つの組織に申請することになっており、国家社会科学基金のプロジェクトを獲得することは登竜門的な意味をもつ。

国家社会科学基金は「重点プロジェクト」「一般プロジェクト」「西部プロジェクト」「青年プロジェクト」「後期プロジェクト」に分かれる。日本文学研究での「重点プロジェクト」獲得は至難である。最近5年で見ると、2018年度の「戦後日本文学界の戦争責任論争及びその思想史的位相」（戦後日本文学界的戦争責任論争及其思想史位相）、2021年度の「イデオロギーとしての私小説言説研究」（作為意識形態的私小説話語研究）と「沖縄文学における混合文化エクリチュールに関する研究」（沖縄文学中的混雑文化書写研究）のみである。「西部プロジェクト」は重慶を含む西部地域の大学、研究機関所属の研究者が申請できるもので、「青年プロジェクト」は35歳未満の若手研究者が申請できる。また「後期プロジェクト」は研究成果の出版を助成するものである。多くの研究者が申請するのは「一般プロジェクト」になる。表4は、最近5年で助成を獲得した「青年プロジェクト」「一般プロジェクト」「西部プロジェクト」の中から、古典文学関係の研究プロジェクトを抽出したものである。

この表を通覧すれば、中国における日本古典文学研究が、中国文学・文化影響論または日本的受容論のどちらかで成り立っていることが分かるだろう。五山文学・江戸漢詩のような分野は、同時に「域外漢学」の要素を備えている。この中で、2018年度の劉菲菲の「日本江戸時代漢学家読書メモの整理と研究」、2020年度呉春燕の「古代日本文学における『莊子』受容史研究」はやや異色のようであるが、いずれも中国文学・文化の影響が眼目になっている。特に注目には値するのは、2018年度の蔣雲斗の「日本仮名草子文学における中

国古代文学の受容研究」、2022年度羅宇の「日本五山文学における蘇軾の影響研究」で、共に博士論文をもとにして助成を獲得したプロジェクトである。国家社会科学基金のプロジェクトの獲得が研究者としての登竜門的な意味をもつことを考えると、「域外漢学」の一環としての日本文学における中国文学・文化影響論が、今後とも日本古典文学研究の柱となることは間違いない。

* * *

以上、「カシオ杯」優秀修士論文賞受賞作、博士論文、専門誌掲載論文及び国家社会科学基金プロジェクトから、近年の中国における日本古典文学研究の現状及び動向を分析した。日本古典文学における中国文学・文化影響論が今後の研究の大きな趨勢となるに違いない。その中で、伝統的なテキスト分析による作品論を超えて、テキストと図像の関係にも焦点が当てられるようになってきていることは、新しい動向として期待される。

Japanese Classical Literary Studies in China: Current Trends and State of the Field

ZHANG Longmei*

This article is a partial introduction to Japanese classical literature research at the graduate school level, examining theses that won the award-winning master's thesis of China's "Casio Cup" Excellent Master's Thesis Award," and Doctoral theses submitted at various Chinese universities. Moreover, I analyze papers published in the *Journal of Japanese Language study and Research*, and projects approved by the National Social Science Fund of China. In so doing, I aim to investigate the current state and future trends of Japanese classical literary research in China.

Keywords: Chinese literature, extraterritorial sinology, Japanese reception, young scholars, competitive research fund

* Professor, Beijing Foreign Studies University